

人文科学研究所研究叢書

38. 『ケルト 口承文化の水脈』

2006年3月3日発行

中央大学人文科学研究所 編 中央大学出版部発行

本体価格5,800円（税別）

ISBN 4-8057-5327-7

序文	
第一部	
第一章 巨人、この異様なもの —ゲーリック口承文化の源流をたどる—	松村 賢一
第二章 コロンバ伝承の展開と歴史的背景	盛 節子
第三章 「キルフッフとオルウェン」における語りの構造と様式	木村 正俊
第四章 「ブルターニュの短詩」に見られる「口承性」をめぐる考察	渡邊 浩司
第二部	
第五章 初期スコットランド小説と複数の声	松井 優子
第六章 語りなおされたフォークロア —『奔放なアイルランド娘』と楽園幻想—	北 文美子
第七章 語る音楽、うたう音楽 —「死者たち」再読—	真鍋 晶子
第八章 「多声」によるアイルランド文学の創成 —ジョン・モンタギューの長編連作詩『荒蕪地』をめぐる—	栩木 伸明
第三部	
第九章 ディンシャナハスとアイデンティティ —カーローの場合—	キアラン・マーレイ
第十章 語られる「ケルト」 —「ケルト懐疑」の語りをめぐる—	三好 みゆき
第十一章 ノンコンフォーミズムの語り	鈴木 哲也
第十二章 ラフカディオ・ハーンにおける口承文化の受容と継承	小泉 凡
第十三章 口承から口誦へ —詩歌における言葉の様態について—	小菅 奎申
索引 人名索引 事項索引	